

ComiNavi



晴れたら晴れた、降ったら降ったで大変なコミケ。でも、大切なのは晴れても降ってもあわてない心がけと事前の準備！ 相手が雨でも日差しでも、自分自身と大切な本を守るためには手間と工夫と努力を忘れてはいけません。

■この夏もやっぱり雨対策！■

このコーナーの定番記事となりつつある雨対策だが、ここしばらくの夏コミの状況を考えれば、決しておろそかにできないことは間違いない。

今回は雨対策の基本中の基本、防水について考えてみよう。

『雨が降る』ということ

入場待機列が作られる場所には雨も風もささぎってくれるものが何もないため、もしなんの対策もしていないまま雨に遭ったら、会場までの時間をずっと濡れて待たなくてはならない。

そうならいくら真夏とはいえ、雨に当たり続ければ人間は30分とたたずに体温調節機能に異常をきたし、体調を崩してしまうのは避けられない。

もちろんそれは論外としても、不完全な対策で入場前に身体や服を濡らし、びしょ濡れの服やバッグで混み合った会場内を移動すれば周囲の参加者やサークルにとっても大迷惑だし、せっかく購入した同人誌だって湿気で痛んでしまう。

毎回書いているが、正に雨に濡れることは百害あって一利なしだ。折り畳みの傘をバッグに忍ばせておくのはもはや常識としても、それでは、より適切な雨対策とは何なのだろう？

雨に負けないステップ3

●Step 1：バッグに数枚数種類

たとえ傘をさしていても、ほとんどの場合バッグは傘の範囲外になって濡れてしまうことが多いもの。特に側面や底に近い部分からいつの間にか水の浸入を許してしまっているケースが多い。

こんな場合にはお馴染みのご家庭用ゴミ袋が威力を発揮する。

袋の開口部が下を向くようにバッグに被せ、ストラップが通る最小限だけ底の部分をカットして、余った部分でくるむようにしてガムテープで止めればOKだ。

一旦包んでしまったバッグは入場まで簡単には開けられないので、携帯電話や財布、行列用の飲食物などは同じく防水素材（なければ別個にビニールに包んでおく）のベルトポーチやミニバックなどに入れ、別にしておくことと、紙のクラフトテープは濡れると貼り付かないので、布ガムテープを使用することの2点がポイントだ。

バッグの構造によって最適な入れ方は様々なので、一度家で持っていく予定のバッグを実際に入れて収まりを確かめておけば確実だろう。

しかし、それでも濡れるときは濡れてしまうものだから、それを見越した対策として、ゴミ袋に加えてコンビニ袋や書店などでくれるビニール製の手提げ袋などを5、6枚、数サイズ、バッグのポケットに忍ばせておくことよ。きちんとたたんでおけばほとんど場所を取らず、会場では濡らしたくない同人誌や濡れてしまった衣服を収納するのをはじめ様々なシーンでちょっとした活躍を見せてくれるはずだ。

